

序章

第三の時-聖霊の時!

神はいつの時代も、人々が道に迷い、間違っただ道を歩んでいるときに、その先見者と預言者を送ってきました。ですから、私たちの時代にも、今の時代にも、14万4千の霊的存在が、その多くが現在受肉して地上に住んでいて、他の霊的存在は来世にいて、そこから働いていますが、預言者や祈りの戦士として地獄の門を叩き、ますます闇が浸透している世界に光が突破するのを助けるために、キリストによって封印されているのです。

一人ひとりがこの世の多くの生活の中で蒔いたものを刈り取る-善行は至福に報いられ、悪行は自分の良心によって容赦なく厳しく裁かれる。わがままの時代は終わった--これは世界の終わりまでに理解しておかなければならないことである。

聖霊の時が来ました。それはイエス・キリストの約束された再臨です。その時にはまだ彼は私たちに多くのことを語られたでしょうが、私たちはその時にはそれを理解することができませんでしたが、今私たちはそのために熟しています。

"私はまだあなたに話したいことがたくさんあるが、あなたは今それを運ぶことができない。しかし、その方、真理の霊が来られたとき、彼はあなたをすべての真理へと導いてくださいます。かれは、自分のことを語るのではなく、聞いたことを話すのである。同じことがわたしを変容させ、わたしのものである者からそれを取り、あなたがたに知らせるからである。父が持っているものはすべて私のものです。ですから、「彼はそれをわたしのものから取って、あなたがたに宣言する」（ヨハネ16:12-15）と言ったのです。

ロケ・ロハス-預言者エリヤの生まれ変わり-は、洗礼者ヨハネがそうであったように、キリストがキリストのために道を準備するための道具としてキリストによって使用されました。これらはイスラエル人の生まれ変わりであり、この時メキシコに転生した人たちは、彼らの理解の器官によって聖霊を通して霊的にキリストの第三の啓示を受け取り、それを書き留めて人類に遺産として残すという任務を負っていました。

これらのメキシコのイエス・キリストの366の教えは、『第三の証し』が684ページ、70以上の章からなる大要として編集されたもので、最初はスペイン語で、次に他の多くの言語で書かれ、『真の人生の書』というタイトルで12巻に出版されています。

スリータイムズ

真の命の書より引用

初めての体験（神父

初めての時の初めに、神はまだ霊的に、選ばれた者たちを通して、ご自分の子供たちと一緒にすることができました。彼らは主の霊的な声が彼らを導いているのを聞いた。しかし、神の子供たちの物質主義の高まりによってこのつながりが失われたとき、神は調停者を求めました。彼は、彼の民とコミュニケーションをとることのできる人を用意した。モーセは、十戒を発表するために選ばれた道具であり、最初にイスラエルの人々に、そして後に全世界に人生の指針を与えるものでした。十戒と詳細な指示によって、モーセは、神が創造主であり、唯一の神であるご自身を、救いのない義（三位一体の神の父）として、ご自分の子供たちに明らかにされた最初の時を象徴しています。

二回目（息子）

時が成就した時、神はご自分の唯一の子を遣わされました。神の御霊はイエスにあって人となり、人の間に住まわれました。彼の教えの中で、彼は神の愛を明らかにし、彼の人生と犠牲的な死によって、彼は人類に完全な模範を与えました。したがって、彼は人類のためにご自身を犠牲にされたときに、十字架上でその最高の表現を見つけた愛を通して、初めての十戒を満たした神のマスターでした。イエスは第二の時（三位一体の御子である神）を象徴しています。

3回目（聖霊様）

イエス様が地上におられた時には、人類はまだそのために成熟していなかったため、すべてを明らかにすることができませんでした。しかし、父が慰め主である聖霊を遣わすと発表されました。この第三の時代は、エリヤによって開始され、その霊は神によって任命された道具を照らしていました。彼は洗礼者ヨハネと同じように、神の聖霊である真理の霊が人の間に啓示されるように、その前身であるロケ・ロハスという単純な男でした。1866年、エリヤの霊は彼の言葉の媒介者を通して宣言した。"私はエリヤであり、最初の日の預言者であり、タボール山での変容の預言者である。霊的洞察力の賜物を持っていたリスナーは、タボール山の変容で弟子たちが体験したイエス、モーセ、エリヤを見ました。これは、時の三大エポックの確認であり、エリヤが真理の霊が自らを伝える第三の時代を象徴していること、すなわち、霊によるキリストの再来（三位一体の神聖霊）を象徴していることを確認するものです。

神はご自身の啓示を完全な順序でお渡しになります。

愛の教えは、私たちがすでに神の義について十分な知識を持っていた後（第一回目）に、イエス様を通して与えられました（第二回目）。そうして、私たちは愛の教えを成就する程度に、私たちの中で真理と知恵の教えを受けられるようになります（三回目）。

これは第三の時代、すなわちエリヤの時代、聖霊の時代であり、1866年にメキシコで「真のいのちの書」が作成されたことから始まり、最終的には「第三テストメント大要」で最高潮に達します。それは、すべての人々の霊化の教えについてであり、キリストの千年の治世と地上に来る平和の王国のための準備についてです。

神はすべての人間の中に宿り、この世にいても来世にいても、すべての人間の父であり創造主であり、すべての人間は神の子である。人間は霊の化身であり、創造の初めに神によって創造された存在です。これらの霊的存在は、自分自身を完璧にするために多くの転生を経て、最初は他の、より完璧な世界で、今はまた、贖罪の惑星地球上で、しかし、また、霊化の学校である。

すべての人は、その人の中に神の輝き、すなわち良心を持っています。良心は人の精神を導く-精神は人の魂を導き、魂は人の心と体を導く。人間は、教義を超えた宗派、信仰、肌の色、国籍、外面的な形や偽のカルトの崇拜、石の教会、ファリサイ派、偽りの光の教えに関係なく、自分自身を霊的にし、神との直接対話を学ばなければならない! 反キリスト

神ご自身は、すべての人間の中にある心の中の神聖なスパーク、すなわち良心である人間の精神の中にある神聖なスパークによって、すべての人間を導き導くことを望んでおられます。そして彼は、子供にとって何が最善かを常に知っている優しい愛に満ちた父親として、人間の自由意志を尊重してこれを行っています。

人は自分の精神を開き、自分の心と神の声を自分の内なる存在の中で聞くことを学ばなければならず、神に教えられ、靈感を受け、導かれるようになります。

人間の任務は、父である神を喜ばせるために、愛と憐れみの業を成し遂げ、神のようになること、つまり、神に近づくために自分を完成させることです。彼の目標は、自分の努力と神の恵みによって完成に達し、永遠に御父のもとに帰ることを許され、その後、永遠に御父とともに生きることです。これは長い道のりであり、すべての人、すべての霊的存在が一步一步進んでいかなければならず、そのためには、霊を浄化し、霊的存在を完成させる力を持つ神聖な教えが必要である。

七つの印鑑

ヨハネの黙示録から七つの封印で知られる「いのちの書」には、神が予見された人類の歴史が記されています。大きく7つの章に分かれており、それぞれに特別な封印がされています。これらの封印はキリストによって破られました。それは、「いのちの書」の各章に含まれる光、神の意志と教育計画が、人間の世界で効果を発揮し、実現されるようにするためでした。人類の発展のそれぞれの霊的段階の主要な教えは、それによって、この時代とそれ以降のすべての時代の指針とモデルとして、神に選ばれた者によって象徴的な出来事として象徴化されます。- 第三時代が始まって以来、「命の書」は第六封印で開封されています。

第一の印章：生贄

このことについて、主は新しい御言葉で次のように語っておられます。「このような霊的発達最初の段階は、父の最初のしもべであるアベルに象徴されています。彼は生贄の象徴です。"妬みが彼に立ちだかった"(U.(=命令番号と節)161,54)

創世記4章から、カインとアベルが神に焼燔の供え物を捧げたことがわかります。アベルの一人は神を慈しみの眼差しで見えていたが、それは無垢で純粋な心で与えられたからである。しかし、カインのものは、カインの心が純粋ではなかったため、神に拒絶されました。これはカインを非常に怒らせ、妬みと憎しみのあまり、弟のアベルを殺してしまいました。しかし、この聖書の物語の深い意味は、アベルは物質的な焼燔の捧げ物とは別に、地上の人間の情熱の霊的な犠牲を神に捧げていたということです。それゆえ、彼の心は無邪気で純粋であった。このように、彼の存在の浄化は、生贄の実際の象徴となっています。まとめると、第一の印章は、罪深い情熱を犠牲にし、霊が物質を支配し、それによって天の御父との霊的な結びつきを得ることを意味していると言えます。

第二の印章：信仰

それはノアに象徴されています。人々は第一の印章の教えに従わず、自由意志を乱用して、物質主義の邪悪な情熱に支配されていました。創世記6:3fには次のように書かれています：「その時、主は言われた『人はもはやわたしの霊によって罰せられることはない。私はまだ彼らに100年と20年を与えるだろう。しかし、主が人の邪悪さが地中に大きく、彼らの心のすべての思いと願望が永遠に悪であることを見たとき、主は、人の邪悪さが地中に大きく、彼らの心のすべての思いと願望が永遠に悪であることを見た。わたしは、わたしが創造した者たちを、地の表面から滅ぼそう。しかし、ノアは主の目にあわれみを見いだした。ノアは敬虔で罪のない人であり、彼の時代には神聖な生活を送っていました。...」

人々は神の警告を軽蔑し、回復のために設定された期限を信じませんでした。一人だけが信じていた：ノア 主は、大洪水の後、新しい人間性で再び始めるために、彼をご自分の道具として選ばれました。- 神の命令をすべて実行するためには強い信仰が必要で、それは当時と

しては並外れたものであり、それゆえに人々に笑われていました。しかし、ノアは神を信頼し、神に命じられた通りに行動した。ノアにとって信仰は文字通りだけでなく、霊的にも救いの箱舟であり、今日まで信仰はすべての信者にとって救いの力となっています。また、信仰のもう一人の偉大な英雄であるアブラハムが、まさに第二の印章の時代に生きていたことも偶然ではありません。

第三の封印：精神的な強さ

ヤコブに象徴されています。神はヤコブに「強い」という意味の霊的な名前「イスラエル」を与えました。ヤコブやイスラエルは、その人生の中で多くの逆境や危険に遭遇し、神に試されました。神様が送ってくださる試練を忍耐と献身で耐えられるようになるために、私たちが身につけなければならない霊的な強さの象徴となったのです。上記の霊的な質のおかげで、神は彼をイスラエルの民の子孫として選び、12人の息子から12の部族が生まれました。エホバもまた、彼を通して、大きな霊的啓示を現すことができました。

旧約聖書では、「天へのはしご」（創世記28:10）として知られている話を知っています。ヤコブは夢の中で、地の上に立って天に登るはしごを見て、神の天使たちはそこから昇り降りしました。梯子の上には主が立っていた。象徴的なイメージの中で、神はこのようにして霊の発展を示されました。私たちの精神は、一步一步昇っていくためには、より成熟し、より純粋にならなければなりません。そうすることで、一度の人間の人生では、いわば最初の試みでは、私たちの精神が、神と一緒にいるまでは、梯子を昇るために必要な純粋さに到達することはできないことがわかります。それは、私たちの精神が到達した成熟度に応じて、その都度、数段上のレベルに登るために多くの試み、多くの転生を必要とします。同時に、主は、はしごの上でじっとしてはいけなく、つまり、霊的発展を絶えず進めていくようにと、主は私たちに戒めておられます。-梯子を降りる神の天使は、主が昇る者を助けるために下に送る光の上級霊です。ここでもまた、神は、神のもとへ帰る途中で私たちを一人にするのではなく、神の助けを提供してくださることが表現されています。下心を犠牲にし、揺るぎない信仰によってのみ、神は私たちの中に生きている霊の火花を大きな力にすることができるのです。

第四封印法

それはモーセに象徴されています。彼はエジプトの束縛からイスラエルの人々を解放するために神に選ばれ、彼を通して人々に十戒と多くの命令を与え、神の御心を人々に知らしめました。十戒はすべての人間の法律の基礎となり、それらが忠実に従われていた場合、人類は良い道を歩んでいたでしょう：神の真の崇拜、正義、秩序、隣人への敬意のこと。しかし、神の律法を無視したこと、つまり、神の意志に対する人間の不従順が、人類を奈落の底に突き落としたのである。

第五封印：愛

それはイエス様に代表されています。神は神のうちに、私たちへの愛から人となりました。彼の人生は完璧な模範であり、彼の教えは愛の一つの栄光であり、それは彼が私たちのために自分の命を与えてくださったときに最高の成就を見いだしたのです。私があなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合うように」（ヨハネ13：34）という新しい戒めをあなたがたに与えます。

そして、この新しい愛の戒めには、すべての律法が含まれています。その最後の結果まで守ることによって、神の霊的な王国がこの地上にもたらされるのです。なぜなら、愛は霊的な王国の前提条件であり、土台であるからです。

第六封印：知恵

第六の印章は、第三の時代の前奏と準備段階として、旧約聖書の預言者で偉大な戦士であるエリヤに象徴されています。

この絵で私たちは、エリヤの霊が光に満ちた神の戦士であることを示しています。イエスの証によると、このケルバの霊はバプテスマのヨハネにも受肉し（マタイ11・7-14）、イエスが自分の教えを彼らに入れることができるように心を整えました。彼はまた、主の霊的復活の時に私たちの時代に主の道を開き、強力な天使の王子として、すべての霊と世界に聖霊の光、すなわち「いのちの書」の第六の封印または章が開かれたところから流れ出る神の知恵を与え、その教えと啓示を主ご自身が選ばれた道具を通して1950年までに知らされたのです。しかし、第六封印の時代はそれでは終わらなかった。第六の印章の光は、キリストの再臨におけるキリストの啓示を認識し、霊性化するまで、人類に輝き続けています。同時に起こる訪問は、霊たちが神の真理と知恵を受け取ることができるように、この展開をサポートしていきます。このようにして、人類は第七の封印に備えることになる。

第七の封印：完成

第七の封印によって、七日目に、比喩的に言えば、創造が完成したように、贖いの業が完成します。御霊は長く苦しい道を旅してきて、霊から霊へ、再び父と親しく接しています。不従順な息子は父の家に帰り、自分自身と世界に打ち勝ったのです。-第七封印の象徴は、この難解な発展と精霊の浄化の道の最終的な到達点となる天のお父様ご自身です。第七の封印はまだ開かれていません。おそらく、一方または他方の霊は、彼の霊的成熟のおかげで、第七の印章がもたらすものの小さな前触れを経験するために、すでに与えられています。

III イスラエルの人々

主は教えの中で、「イスラエルの民」、「わたしの民」、あるいは単に「民」のことをよく語られます。これは決して集会が行われたメキシコの国を指しているわけではありません。イスラエル国家のことを指しているのでしょうか？-No.-間違いを避けるために、ここでは「イスラエル」という名前の由来と、黙示録の中で「イスラエルの民」と呼ばれている人について簡単に説明します。聖書に詳しい人は、旧約聖書の中で、ヤコブが困難な生活状況の中で、夜明けが来るまで「男」と格闘したという話をよく知っています。"男"は彼に打ち勝つことができず、最後に言った。"あなたがたはもはやヤコブとは呼ばれず、イスラエルと呼ばれることになる。"あなたがたは神と人との間で戦い、従順であるからである。"そして神はヤコブとの約束を新たにされました。「あなたの子孫は地のちりようになり、あなたは夕方、朝、夜中、昼に向かって海外に広げられ、あなたとあなたの子孫によって、地のすべての世代が祝福される」-イスラエルは霊的な名前であり、「強い」という意味を持っています。それは、イスラエルの多数の強い民である全国民を含む強い霊的共同体となることでした。そして、神は人々がその中で平和に暮らし、神との霊的なつながりを深めるために、約束の地を与えられたのです。しかし、神との約束により、唯一の神の真の礼拝と神の教えの真理を地上のすべての民に示すこと、すなわち祭司の民であることという条件が付けられていました。

旧約聖書は、何世紀にもわたってイスラエルの人々が発展してきたことを生き生きと報告しています。それは、神との霊的な接触を維持し、その中から民の賢明な指導者や偉大な預言者たちが現れたからです。一方で、物質主義的なイスラエルと呼びたい大多数は、大いなる知恵と忍耐力とエネルギーという神の祝福をもっぱら権力と富を得るために利用していたからです。このような神との契約に対する不従順は、イスラエルの人々にしばしば自分たち自

身の責任となる厳しい試練をもたらしました。苦難と苦難の中で、人々は神に向かって叫びましたが、悔い改めは自由を取り戻し、富を得るまで続けました。

多くの試練の間、霊的なイスラエルの少数派は、気づかれずに生きていましたが、メシアに対する信仰と希望に満ちていました。だからこそ、イエス様が彼らの中で人間となって、国家間の霊的使命に再び人々の注意を呼び起こし、そのための準備をするために、イエス様は彼らの中で人間となることができたのです。霊的なイスラエルは主に従い、主の言葉を聞いて喜んでいました。大多数の物質主義者であるイスラエルは、ほとんど彼のことを気にしておらず、公式の教会は彼をしっかりと拒絶していました。彼らは、ローマ人の支配を打ち破り、地上の栄光と無敵のイスラエルを確立する強靱な戦士を期待していました。しかしメシアはへりくだって言った"私の王国はこの世のものではない"と失望はとても大きかったので、彼らは彼を扇動者、冒涇者として非難し、彼を十字架につけさせました。- 霊的なイスラエルと物質主義的なイスラエルの間の目に見える分離という、とてつもなく重要な出来事が起こったのです。

霊的なイスラエル人たちが使徒たちの周りに集まってきて、小さなグループの中ですぐに知識が成熟し、使徒ペテロはそれを言葉にしました：「今、私は真理をもって学んだのですが、神は人を見るのではなく、あらゆる種類の人々の中であって、神を畏れ、正しいことをする者は神に喜ばれるということ。- ですから、ユダヤ人だけが霊的なイスラエルに属しているのではなく、キリストの言葉を信じてそれに従って行動するすべての宗教や国の人々が属しているのです。唯物論的なイスラエルは、ローマの支配を振り払おうとする狂信的な努力の中で、激しい戦争のような敗北を喫し、紀元70年のエルサレムの破壊の後、国家としての地位を失い、ユダヤ人は世界中に散っていった。唯物論的なイスラエルが、神の律法に不服従し、メシアを拒否したことによって自ら引き起こした恐ろしい裁き。イエスの預言は、エルサレムの壮大な神殿を見て、執拗に成就しました。エルサレムよ、エルサレムよ、預言者たちを殺し、あなたがたに遣わされた者たちに石を投げつける者たちよ。見よ、あなたの家は荒れ果ててしまう。"- その後の数世紀の間に、それはどこでも、抑圧、屈辱、苦難に苦しむ歓迎されない少数派であった。しかし、それらの恐ろしい出来事と、その結果として生じた霊的なイスラエルと物質主義的なイスラエルとの間の目に見える分離から約2000年後の今、夢にも思わなかった重要な変化が再び起こっています。地上の民族の中ではかろうじて少数派として、弱くて影響力の少ない集団であった霊的イスラエルが、揺さぶられて集められようとしています。キリストは霊的帰依の中で、「御霊に従ったイスラエル」に語りかけます。彼は今、「イスラエルの散らばった部族」のすべてを一つにして、自分の霊を装備し、人類の救いと霊化に達するまで戦いに送り込むために、「イスラエルの散らばった部族」をすべて一つにします。そのための教えが、「真のいのちの書」全12巻に集められたキリストの新啓示です。反対側には唯物論的なイスラエルがいます。その巡礼の旅は長く、苦しいものでした。しかし、最も厳しい抑圧の時代は終わりました。それは強くて誇りに満ちたものになり、民族主義の支部は国家としての地位を再確立し、古い宗教的伝統が目覚めました。エホバとモーセの律法を満たしていると信じていますが、実際はまだ金の子牛を崇拝しています。それは、その霊的使命を理解し、実行することとは程遠いものです。これは、ユダヤ人やイスラエル人の国家に対する一方的な非難として受け取られるべきではありません。- この説明の中で物質主義的なイスラエルが特に言及されているとしたら、それは、この論文が霊的なイスラエルと物質主義的なイスラエルを扱い、後者が地の民の中で祭司的な民となるために神によって与えられた任務をまだ果たしていないと述べているからです。

私たちは無意識のうちに、次は何が起こるのかと自問自答しています。- 私たちは、神様がイスラエルの人々に大きな約束をしてくださったことを忘れてはいけません。しかし同時に、ヤコブの後の名前であるイスラエルがすでに霊的な名前であるように、神がヤコブの子孫に関して与えた祝福の約束が霊に関係していることも知っておかなければなりません。約束が問題を指していると考えるのは間違いで、つまり、民の部族やイスラエルの現在の状態を

指していると考えるのは間違いです。もしそうであるならば、神の預言者や使者たちは、まだ彼の中に生じるであろう。-しかし、今はまだ物質主義的なイスラエルが霊的なイスラエルと一つになり、両者が再び一つになり、一つの民族イスラエルを形成する時が来るのです。しかし、いつになったらこうなるのだろうか。-物質主義的なイスラエルが、金と権力と誇りを捨て、主の新しい啓示を認め、痛みの涙を流して叫ぶとき、それはおそらく、すべてを網羅する新たな訪問の後にのみ可能になるでしょう：イエスはメシアであり、キリストはまた、私たちのための「道、真理、命」でもあります。